

2020年2月

生活支援コーディネーター

～ささえあいの地域づくりを目指して～

ニュース

第1層(豊中市域)

第2層(日常生活圏域)

第3層(小学校区)

発行 社会福祉法人 豊中市社会福祉協議会 地域福祉課

〒560-0023 豊中市岡上の町 2-1-15 豊中市すこやかプラザ内 ☎ 06-6848-1279

平成29年度より新たに設置された生活支援コーディネーターは「**すべての人に居場所と役割を**」をテーマにこの3年間、高齢者の**多様な社会参加の場**を生み出してきました。令和元年12月6日に実施した介護予防・生活支援フォーラムでは、これまでの取り組みを活動中のみなさんにご発表いただきました。それぞれの活動の詳細は市社協**地域福祉課**(☎ 06-6848-1279)にお問合せください。

第3層 「ぐんぐん元気塾(住民主体ささえあい活動(通所型))の取り組みについて」

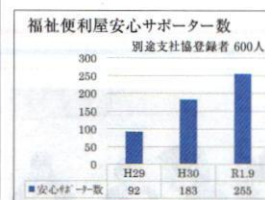
大池地区社会福祉協議会 鷲尾 正信さん

スタートして2年ちょっと経ちましたが、途中で体調を崩された方がおらず、よくできた体操だと思います。茶話会は最初は友達もいないのでお通夜の様でしたが、回を重ねるごとにみなさんが仲良くなって体操よりもおしゃべり会のために来ているという方もおられます。また、来るからには女性は化粧をするなど張り合いをもって参加されています。肩の力を抜いて気楽にやって、筋力がついて、お友達ができる…ということでもいいのではないかと思います。



第3層 「福祉便利屋事業(住民主体ささえあい活動(訪問型))の取り組みについて」

原田校区福祉委員会 湯川 莊一さん

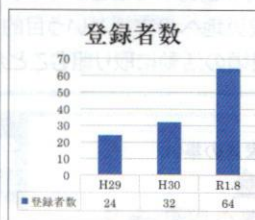


原田校区では2017年11月からスタート。主な担い手は校区内の男性のボランティアグループ「遊雄塾」のメンバー14名が研修を受け、安心サポーターとなり2人一組で活動をしています。これまでの依頼は60件、粗大ゴミ搬出、庭の手入れ、エアコンフィルター清掃といった室内作業です。敬老の集いの際には利用者を増やすため、お試し券を配布し、周知を図っています。また、サポーターの後継者を育成していくことも今後の課題です。

第2層 第3層 「内職広場の取り組みについて」

豊島北福祉委員会 管原 忠男さん

市社協から今年の敬老の集いに参加することだけではなく、参加品作りを内職として作業しませんかと声かけがあり、みなさんに相談した結果「内職大歓迎!」と久しぶりに大いに盛り上がりました。作業の雰囲気は和気あいあい、昔自分たちの親が内職していたお話や地域での日頃聴こえない小さなことなど情報交換の場となりました。金額の大小ではなく、このような取り組みは大変盛り上がり、次への活力となっていることに気がきました。



内職広場の様子



オレンジの車体が目印です!



移動販売の様子

第3層 「移動販売の取り組みについて」

豊中あぐりメンバー 青木 克幸さん

豊中あぐりの新たな取り組みとして、2018年秋に移動販売用に軽トラック「動くマルシェ号」を購入しました。買い物困難地域での販売を優先しながら、ぐんぐん元気塾の会場や福祉施設など約40ヶ所を対象に、毎月20ヶ所を選んで訪問しています。豊中あぐりの活動場所(畑)は6ヶ所に増えており、販売先のルートを拡大していく必要があります。また、高齢者にとっては重い野菜を買いに行くことは負担であったり、老人ホームでは園内で買い物ができる…と待ち望む声も多いことから今後も動くマルシェ号で新鮮な野菜を届けていきたいと思っています。



高齢者等見守りネットワーク

移送・配食・生活支援サービス・買物支援の事業者や見守り活動にご協力いただける事業者へ呼びかけ、年に1回、各事業所の現状や課題について意見交換をしています。

※事業所情報は介護サービス事業者情報システムに掲載しています。
<https://www.u-system.com/u-wins/toyonaka/>

第1層 「事業所の取り組みについて」

はあと&はあとライフサポート 管理栄養士 杉浦 和希さん

配食の事業では安否確認サービスを併せて実施しています。基本的にお弁当は手渡しですが、手渡しできなければ、担当の配送員から管理栄養士に連絡が入ります。初回面談の際に連絡先を伺っているので、直接連絡をし、状況の確認をしています。しかし、介護保険を利用していない、医療機関にもかかっていない、親族、友人が近くにいない方もいらっしゃいます。もう少し見守りがほしいケースもあり、どうしたらいいか…ということもありましたが、ネットワークに参加することで包括支援センターとの連携などアドバイスをいただいたので、今後連携していきたいと思います。

第1層 「事業所の取り組みについて」

株式会社セブン・イレブン・ジャパン 神吉 隆雄さん

セブンイレブンではH27年に大阪府と見守り協定を結んでおり、セブンミールという配達業務での見守りに取り組んでいます。昨今では徘徊者の連絡が入り、うずくまるところを保護したり、特殊詐欺を水際で阻止したり、配達などの買い物支援も行っています。担い手として元気なシニアさんにこそスタッフとしてご活躍いただきたいと考えています。時間もきっちり守る、掃除も丁寧、販売もシニアならではの経験豊かさを活かしていただきたいと思っています。Sサポ(とよなか生涯現役サポートセンター)の協力でおしごと説明会も開催して、多くの方にご参加いただいています。



連絡会の取り組み ●シングルフェスティバル



第3層 「ひとり暮らし老人の会の取り組みについて」

豊中市ひとり暮らし老人の会連絡会 岸岡 朝子さん

連絡会では11月にはシングルフェスティバルが開催され、シルバー作品展の出品や手作り作品の販売に取り組みました。会員のみなさんには横のつながりを一番大切にし、地域の人たちと連携を持ち、助け合い、励まし合って生きていかないといいなと思っています。これからもやりがい生きがいをもって頑張っていこうとみなさんに話しています。

第1層 「老人クラブの取り組みについて」

三国豊寿会 若林 政子さん

昨年の台風19号被災地支援において、豊中市老人クラブ会員で一枚一枚の雑巾に被災地への思いを込めてという呼びかけの結果、およそ1000人の会員から1804枚の協力を得ることができました。他人ごとと考えないで、日頃、単位クラブで行っている雑巾作りという無理のない範囲で協力することができました。また、今回の活動は会員のいきがい活動の一つとして、被災地への支援という目的があり、やりがい生まれ、モチベーションの上がつた状態で日頃の活動に取り組むことができました。



集まった雑巾は台風19号の被災地の災害ボランティアセンターに届けました。 日常的に会員自身の健康づくり、生きがいづくりの取り組みを進めています。

若年認知症本人・家族の集い ももの会 たすき中継点



第1層 「認知症になっても輝いていたいたい」

豊中市老人介護者(家族)の会 西野 玲子さん

認知症の人は何もわからないわけではありません。誰よりも不安なもの、苦しいもの、悲しいのも本人なのです。本人の力を引き出して、その人らしい生活が送れるように、介護者の会ではお手伝いをしています。RUN伴全国縦断たすきリレー、若年認知症本人・家族の集い「ももの会」、おれんじカフェなど、認知症当事者が気軽に参加でき、輝ける場所がたくさんできることを願っています。

第1層 「私の豊中ヒストリア」

吉川 四郎さん

地域ケア個別会議の課題から90代の方の社会参加を考える中で、歴史に残したい話を映像として残していこうということで市社協登録ボランティアグループ「ズーム・イン」の協力で撮影をしていただきました。吉川さんには戦争体験をお話いただきました。このために、練習をしたり、原稿を作ったり…と頭や心を遣っていただいています。また、今後は場合によっては学校でお話いただく…といったステージも準備しています。



内本昭三さんの撮影の様子